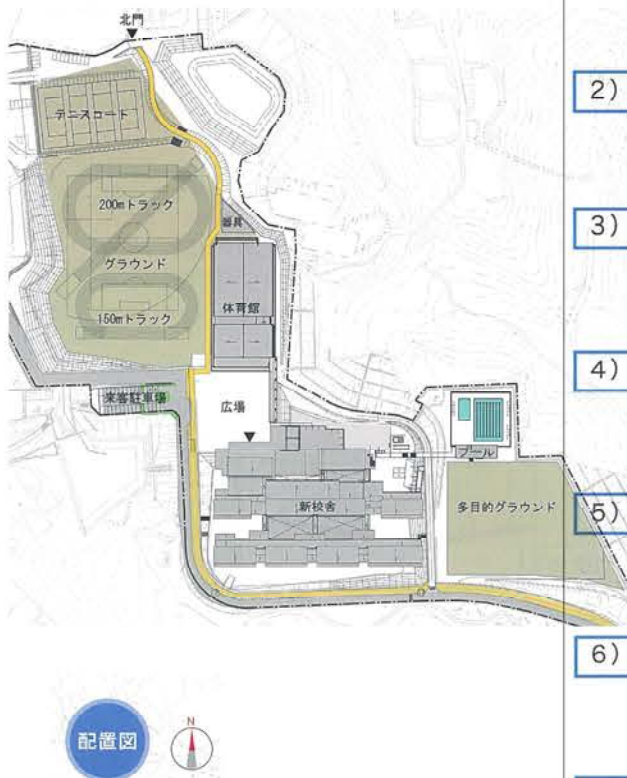


## ■ 学校概要

学校	参考例・瀬戸市立小中一貫校	牧之原市 義務教育学校 ※数字は現時点での想定	
	にじの丘学園	榛原地区	相良地区
開校年	2020	2030 (予定)	2033 (予定)
児童生徒数 ※開校時	854名 (小学校 654名、中学校 200名)	1182名 (小学校 757名、中学校 425名)	873名 (小学校 553名、中学校 320名)
学級数 ※開校時	27 (小学校 20、中学校 7) + 特別支援学級 6	39 (小学校 24、中学校 15) + 特別支援学級	30 (小学校 18、中学校 12) + 特別支援学級

※住民基本台帳登録者数、令和3年度学校基本調査をもとに算出  
※特別支援学級の児童数は1クラスの上限を8名とする

## ■ 施設整備の基本的な考え方 (『瀬戸市施設整備基本構想』記載)



- 敷地周辺の自然環境に調和した学校とする。
  - 現状の敷地形状、高低差を生かした配置計画とする。
  - 環境負荷低減、自然との共生を考慮した施設とし、環境教育に生かす。
  - 周辺環境と一体となった低層校舎を目指す。
- 小中学校が一体的運営を可能とする施設環境を整備する。
  - 校舎は一体性を確保しながら、学年構成に対応した領域を構成する。
  - 児童生徒が日常的に交流できる空間や動線を計画する。
  - 校務にかかわる管理部門を集約し、働きやすく、円滑な運営を目指す。
- 将来に向け、高機能で多様な学習環境を整備する。
  - 少人数教育、アクティブ・ラーニングなど多様な学習の場を用意する。
  - ICT機器の導入、メディアセンターの充実などを図る。
  - 発達段階に対応した学習環境を整備する。
- 子ども・教職員・障害者など性差なく多様な利用者に優しい環境とする。
  - 全ての人が利用しやすいユニバーサルデザインとする。
  - 利用者に居心地よく、愛着の感じられる多様な空間やインテリアとする。
  - 自然エネルギーなどを導入しながら、快適な温熱環境を保つ。
- 地域と学校の協働関係を円滑に保てる施設環境とする。
  - 学校を支援する地域コミュニティの拠点を確保する。
  - 運動施設、特別教室など学校施設の地域利用が可能な計画とする。
  - 児童生徒の学校生活と、地域利用が交錯しないよう計画する。
- 統合する7校の歴史伝統を継承する。
  - 旧校舎の歴史資料を展示保存するスペースを設ける。
  - 旧校舎をシンボライズする場を外部にも計画する。
  - 瀬戸市の伝統産業である陶磁器について、体験的に学べる場を計画する。
- 安心安全で、長い間、活用できる建築を目指す。
  - 児童生徒の発達段階や利用内容に応じ、安全な環境を適切に確保する。
  - 災害時に、地域の防災拠点としての機能をもつ。
  - 災害に強く、非常時に避難しやすい構造とする。

## ■ 『基本的な考え方』と実際にできた学校の関連

図・考え方 出典：『SchoolAmenity』No.414



昇降口前の広場

## 考え方1) 自然環境に調和

- ・敷地の傾斜を活かした配置
- ・低層校舎 (昇降口付近のみ3層、基本は2層)



昇降口から続く『登り窯ステップ』

トイレ前のベンチ

## 考え方2) 小中学校の一体的運営を可能とする施設環境

- ・児童生徒が日常的に交流できる大階段やトイレ前に設けられたベンチ

出典：https://iimonsetomon.jp



『登り窯ステップ』  
教室前のワークスペース  
上) 現地にて撮影 下) 出典: https://iimonsetomon.jp

**考え方7) 安心安全で長く活用できる**  
・広く、見通しの良い廊下や階段まわりにより、安全な動線計画



**小中学生が一緒に生活するにあたり  
学校施設で工夫したところ**  
(視察時の質疑回答より)

- ・普通教室は3教室を1ユニットとし、ユニット間に多目的教室を挟むことで**学年のまとめり**をつくった
- ・学年ユニットごと学年に合った学習環境を用意 (低学年ユニットの近くには「アルコーブ」や落ち着いた中庭を配置、高学年になるほど特別教室近くに配置)



**考え方2) 小中学校の一体的運営  
を可能とする施設環境**

- ・管理部門を集約し、働き易く円滑な運営につなげる

**考え方5) 地域と学校の協働関係を円滑に保てる施設環境**

- ・昇降口横に外からも直接出入りできる地域連携室を配置



出典: 『SchoolAmenity』 No.414

交流ゾーンを教室ゾーンが取り囲むゾーニング  
出典: 『SchoolAmenity』 No.414 に加筆

### 考え方 3) 高機能で多様な学習環境

- ・メディアセンターの充実



学校の中心に設けられたメディアセンターは『登り窯ステップ』と一体的なオープンな空間



出典：https://iimonsetomon.jp

### 考え方 4) 多様な利用者に優しい環境

- ・利用者が愛着を感じられるインテリア



出典：『SchoolAmenity』No.414

焼き物と土壁塗装でデザインされた壁面と釉薬の原料をアクセントにした室名サイン

### 考え方 6) 統合する 7 校の歴史伝統の継承

- ・建物随所に瀬戸物を使用、外壁は瀬戸の土壁仕上げとするなど、日常から郷土への愛着や歴史を学ぶつくり



土壁塗装の校舎西側外観

出典：『SchoolAmenity』No.414

### ■ その他 特徴的な室やスペース



体育館) ステージを常設せず、必要な時のみ壁から引出す (大体育室)



武道場) 学年集会など多目的に使用できる配置・仕様



出典：『SchoolAmenity』No.414

#### 3室が一体利用できる多目的室)

PC 端末の置かれたメディアルーム、PTA の打合せなどを行う学  
宴会室、学習室の 3 室は可動壁を動かして一体利用もできる



#### それぞれ特徴付けがされた多数の庭)

中庭含む庭には、「瀬戸の 7 軸」をそれぞれ床タイルに使用、  
多様な個性や素養を伸ばせる場づくりをしている